

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会		主 査 名：富田 隆太 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：松本 泰尚
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、「環境振動性能評価の現状や問題点の把握、および課題の抽出」等を含めた「環境振動評価」に関して幅広く議論を行うことを目的としている。</p> <p>初年度：環境振動評価の現状の課題の整理と問題点の抽出 2 年度：環境振動評価の課題や問題点についての議論を進める 3 年度：環境振動評価の課題や問題点についての議論を進める 4 年度：環境振動評価の課題や問題点についての検討結果をまとめる</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：富田隆太 (日本大学) 幹事：稲井慎介 (戸田建設) 委員：石川孝重 (日本女子大学), 石川理都子 (大林組), 植松武是 (北海学園大学), 川久保政茂 (円石コンサルタント), 国松直 (RED 総合研究所), 新藤智 (西日本工業大学), 鈴木雅靖 (鹿島建設), 濱本卓司 (東京都市大学), 久木章江 (文化学園大学), 松下仁士 (竹中工務店), 松本泰尚 (埼玉大学), 横山 裕 (東京工業大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	時間効果検討WG：居住性能評価規準で一律に 1/4 乗で加味している継続時間の影響について、次期改定を見据えてより詳しく検討していく。		
2022 年度予算	102,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/subcommittee2_performance/AIJ_EVSC2index.html</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 予定通り, 環境振動評価の現状の課題の整理と問題点の抽出を行った。</p> <p>2. 予定通り, 時間効果検討WGでも議論が進められた。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	1. 特になし

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当初の予定通り活動を行うことができた。</p> <p>環境振動評価の将来展開について、環境振動評価の現状の課題の整理と問題点の抽出、建築物の振動に関する居住性能評価規準の見直し項目の検討、等について議論を行うことができた。</p> <p>また、「時間効果検討 WG」において、居住性能評価規準で一律に 1/4 乗で加味している継続時間の影響について、次期改定を見据えてより詳しく検討することができた。環境振動の「見える化(説明性)」についても議論を行うことができた。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。